



優美に舞う能の世界に魅了される

8/25 第28回信州安曇野能楽鑑賞会

観世流能楽師で名誉市民である故・青木祥二郎さんの業績を顕彰し、日本の古典芸能に触れてもらうようと、平成3年から続く「信州安曇野能楽鑑賞会」が豊科公民館で開かれました。当日は、能「羽衣」「烏帽子折」、狂言「文荷」が上演され、約450人の観客は洗練された能を楽しみました。また、開演前には子どもたちによる仕舞の発表があり、仕舞を披露した中嶋春香さん（大町岳陽高校1年）は「謡の音程が出しにくく苦労したが、舞台では堂々と見えるよう視線を落とさないように集中してできた。能の公演は、動作がきれいで、日本古来の美しさを感じられた」と話してくれました。



夜空を彩る1万2,000発

8/14 第12回安曇野花火

第12回安曇野花火（実行委員会主催）が、明科御宝田遊水池の犀川河川敷で開かれました。「ありがとう安曇野」をテーマに、約1万2,000発の色とりどりの花火が打ち上げられました。会場は、家族連れや浴衣姿の来場者などで賑わい、音楽に合わせて打ち上げる音楽花火など、趣向を凝らした花火に大きな歓声が上がっていました。



憧れの選手たちと交流

8/25 松本山雅FC vs 横浜FC ホームタウンデー

サッカー J2 松本山雅FC 対横浜FC にてホームタウンデーがアルウィンで催され、ホームタウンの各自治体がブースを出展するなど地元をPRしました。試合前には現役選手によるサッカークリニックが開かれ、参加した子どもたちは憧れの選手と一緒にボールを蹴って交流していました。試合は惜しくも1-3で敗れてしまいましたが、観客席からはJ1昇格に向けて熱いエールが送られていました。



県内初開催！46億年の物語を辿る

8/18 脚本家「倉本聰」監修 46億年・地球の道 in 安曇野

地球誕生から現在までの歴史46億年を、460メートルの距離に置き換え学ぶ講座が国営アルプスあづみの公園で開催されました。当日は小中学生の親子約60人が参加。園内に設置されたコースを講師の中島吾郎さんと一緒に歩き、地球に生息した生物や進化の過程を学びました。1メートル進むごとに1千万年の時が流れる設定で、ゴールの2センチメートル手前でやっと人類が登場。子どもたちからは驚きの声があがっていました。小学校3年生の角谷美森さん（穂高柏原）は「昔の地球には色んな生き物がいてびっくりした」と話してくれました。講師の中島さんは「地球は子孫から借りているものと考え、大切にしてほしい」と話していました。

